

長年、趣味でBIダッシュボードをつくってきた人間が Squadbaseを使ってみた

Squadbase Community Meetup #0

2026/9/30

Hakuhodo DY ONE

会社概要

Hakuhodo DY ONEは、高度な運用力と技術開発力、戦略立案力やクリエイティビティを強みに、企業の事業成長を包括的に支援するデジタルマーケティング会社です。博報堂D Yグループの「デジタルコア」として、グループ内のナレッジやリソースを集約し、国内外のクライアント企業に最適な統合型マーケティングサービスを提供しています。

社名	株式会社Hakuhodo DY ONE		
代表者	代表取締役社長 北爪宏彰		
設立	2024年4月1日	社員数	3,290名（2026年4月1日時点）

■本社

東京都港区赤坂5丁目3-1 赤坂Bizタワー

■拠点

- 関西支社：大阪府大阪市北区中之島2-3-18 中之島フェスティバルタワー20F
- 中部支社：愛知県名古屋市中区栄3丁目3番21号 セントライズ栄7F
- 九州支社：福岡県福岡市中央区天神一丁目14番18号 天神ブリッククロス南棟 4F
- 東京オフィス：東京都渋谷区恵比寿4丁目20番3号 恵比寿ガーデンプレイスタワー
- 高知オフィス：高知県高知市帯屋町2-2-9 帯屋町CENTRO3F
- 新潟オフィス：新潟県新潟市中央区東大通2-4-10 日本生命新潟ビル10F

- さいたまオペレーションセンター：埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-11-20 大宮 J P ビルディング13F
- アイクリエイティブデベロップメントセンター新潟：新潟県新潟市中央区東大通2-4-10 日本生命新潟ビル10F
- アイクリエイティブデベロップメントセンター高知：高知県高知市帯屋町2-2-9 帯屋町CENTRO3F



博報堂 D Y グループでの位置付け

Hakuhodo DY ONEはデジタルマーケティングに強みを持つ広告事業会社として位置しています。
生活者とのコミュニケーション手法が多様化する中、グループ横断で変革を推進する専門組織を組成するなど相互連携し、
市場のニーズにいち早く対応できるサービス設計/提供体制を構築しています。

博報堂 D Y グループの体制



博報堂 D Y グループ横断プロジェクト



自己紹介



主なBIツール利用経験

#Tableau #Tableau Next #CRM Analytics #Looker #データポータル #PowerBI

PROFILE

廣本 嶺

RYO HIROMOTO

株式会社Hakuhodo DY ONE

TXソリューション本部 ナレッジマネジメント部 部長

TXソリューション本部 第三開発部 部長

株式会社博報堂テクノロジーズ

BIソリューション開発部

MISSION

データとテクノロジーの力で顧客のマーケティングDXを支援する

WORK

組織のナレッジマネジメントの実践 / 独自研修や育成の仕組みづくり /
新機能や技術の検証 / 組織のAI活用推進 / AIエージェントの開発

INTERESTS

展覧会巡り / Tableauダッシュボード作成 / テックブログ執筆 /
最近はお弁当作り

BIダッシュボード作成の経歴

2017

新設されたBIの専門部署に配属。
社内業務効率化目的のダッシュボード開発に携わる。

2019

Tableauのコミュニティ資格「Data Saber」を取得。
社内コミュニティの立ち上げ、個人ブログの執筆を開始。



半分趣味でダッシュボード作成や検証を継続。

会社のテックブログを立ち上げ。

2026

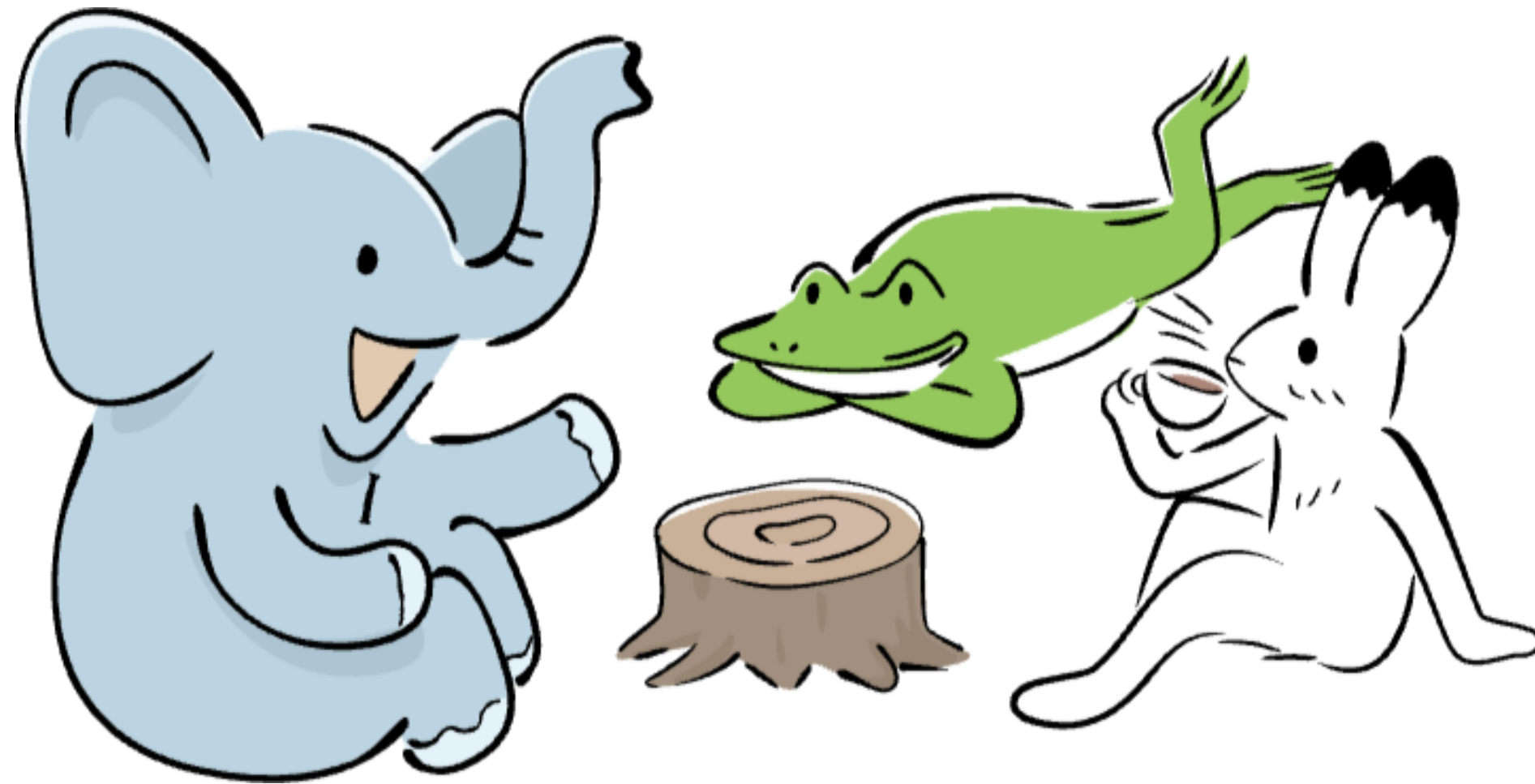
Squadbaseに出会う。
機能検証や社内利用推進、顧客提供支援などを実施中。



本日本話したいこと

- ① 「生成AIでダッシュボードつくりました」は本当か
- ② Squadbaseの「ダッシュボード機能以外」の便利な使い方

本日はSqaudbaseのユーザー会です！
一緒にSquadbaseを盛り上げていきましょう！



本日本話したいこと

① 「生成AIでダッシュボードつくりました」は本当か

② Squadbaseの「ダッシュボード機能以外」の便利な使い方

従来のBIダッシュボードの課題

工程	対応事項	課題
データ接続	コネクタ設定・認証設定・ツールごとの作法と制約	専門知識が必要 都度データ管理部門へ依頼
データ定義	セマンティックレイヤー・計算定義・命名規則	属人化しがち
ダッシュボード設計	グラフ選定・レイアウト・UX設計	センスと経験に依存しがち
修正・保守	要件やデータ変更に対する修正対応・保守担当者のアサイン	作成者に依存しがち
共有	ライセンス管理・埋め込み対応・ユーザー権限管理	金銭・工数の両面でコスト発生

最近よく聞く話：生成AIでダッシュボードをつくる人が出現

ダッシュボード？

あ、AIでサクッとつくっちゃいました



最近よく聞く話：生成AIでダッシュボードをつくる人が出現

営業パフォーマンス監視ダッシュボード

まず `draft/agg_compare/sales_data.csv` の中身を確認し、データ構造を把握します。

読み取り `sales_data.csv` >

CSVの全体像を把握するため、行数・部門一覧・社員数・年月の範囲を確認するコマンドを実行したいです。

実行内容の説明

1. 何をするか： `wc -l` で行数、 `cut` と `sort -u` で `department`・`employee_id`・`year/month`のユニーク値を集計し、`draft/agg_compare/sales_data.csv`の全体構造を確認します（読み取りのみ、ファイルの変更なし）。

2. 安全性：読み取り専用コマンドで、作業フォルダ内の既存CSVを参照するだけです。ファイルの作成・削除・編集は行いません。

3. 許可しなかった場合：このコマンドを実行できないと、データの部門数・社員数・期間などの全体像が分からないまま構成案を提示することになり、KPIタイトルや部門別グラフの設計精度が下がります。

実行してよろしいでしょうか。

実行済み 2件のコマンド >

データを確認しました。ポイントは以下の通りです。

データ概要

• 480レコード、期間は2024年1月～2025年12月（24ヶ月分）

• 部門3つ：営業1課（7名）・営業2課（7名）・営業3課（6名）、社員計20名

• `customer_rank` は社員×月の1レコードにつき1つ（A/B/Cのいずれか）のみ付与されており、「その月の売上をランク別に内訳した値」ではない

• 直近月＝2025年12月、前月＝2025年11月（前月比の基準）

構成案（Step1）

① 全体サマリー（KPIタイトル）

• 2025年12月実績で「売上合計・目標合計・達成率・利益率」

/でコマンド

手動 + Sonnet 5 高

sales_performance_dashboard.html

営業パフォーマンス監視ダッシュボード

対象期間：2024年1月～2025年12月（直近月：2025年12月／前月：2025年11月）

売上合計（2025年12月）

5,738

前月比 -6.1%

目標合計（2025年12月）

5,578

前月比 -8.3%

達成率（2025年12月）

102.9%

前月比 +2.4pt

利益率（2025年12月）

45.6%

前月比 -1.2pt

部門別パフォーマンス比較

達成率100%未満の部門バーは赤で表示

直近月 累計

達成率(%)

利益率(%)

営業1課

営業2課

営業3課

0 20 40 60 80 100 120

月別トレンド（部門別）

売上 達成率 利益率

ダッシュボード、
もうこれでよくない？



従来のBIダッシュボードの課題：生成AIで解決？



工程	対応事項	課題→解決？
データ接続	コネクタ設定・認証設定・ツールごとの作法と制約	手元のCSVアップでOK AIに依頼すればつくってくれる
データ定義	セマンティックレイヤー・計算定義・命名規則	わざわざ指示しなくても AIがよしなに解釈してくれる
ダッシュボード設計	グラフ選定・レイアウト・UX設計	わざわざ考えなくても AIが良い感じにつくってくれる
修正・保守	要件やデータ変更に対する修正対応・保守担当者のアサイン	AIに都度依頼すればOK
共有	ライセンス管理・埋め込み対応・ユーザー権限管理	HTMLファイルを共有すれば 見られるでしょ

実は落とし穴があります



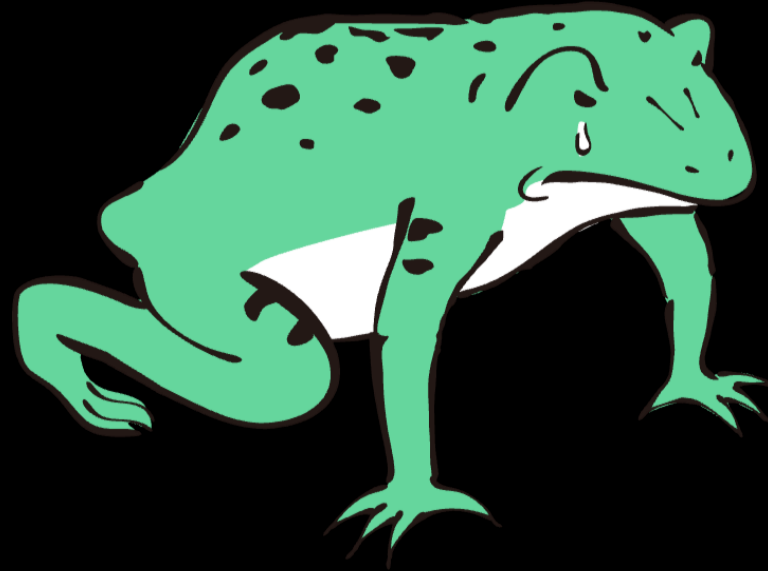
生成AIでつくるダッシュボードの落とし穴



工程	落とし穴	課題→解決？
データ接続	DBと未連携のデータを使用しているため、更新性やデータの取得可否、セキュリティの問題がある。	手元のCSVアップでOK AIに依頼すればつくってくれる
データ定義	指標の定義がAI任せになり、組織で基準がそろわない。 AIが常に同じ定義をするとは限らない。	わざわざ指示しなくても AIがよしなに解釈してくれる
ダッシュボード設計	見た目はつくれても「なぜそのグラフなのか」 「データを見てどうアクションするか」を説明できない。	わざわざ考えなくても AIが良い感じにつくってくれる
修正・保守	結局「作成者依存」から「AI依存」に変わっただけ。	AIに都度依頼すればOK
共有	データに対するアクセス制御はもちろん、 ダッシュボードが外部へ漏洩するリスクがある。	HTMLファイルを共有すれば 見られるでしょ

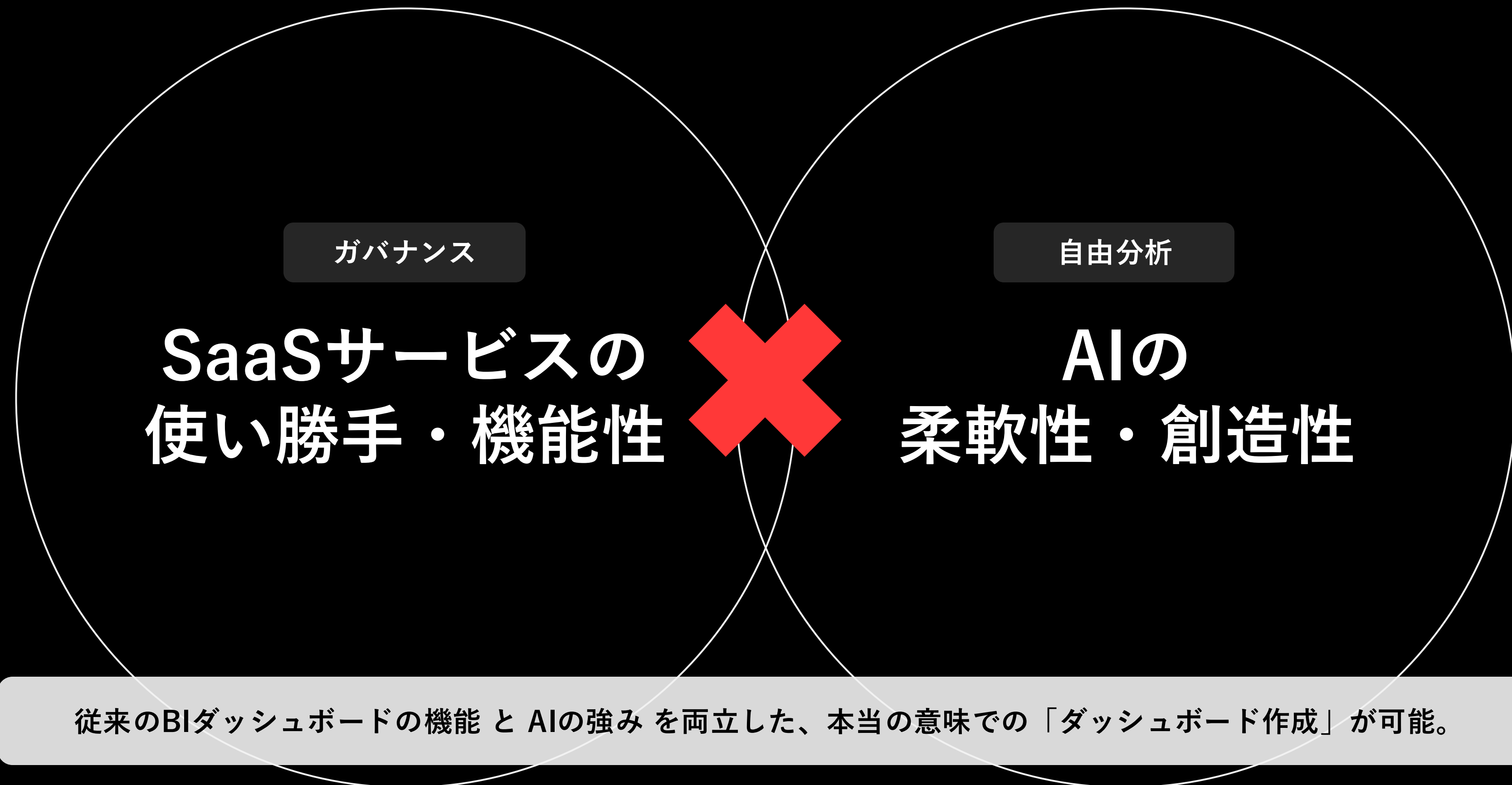
ダッシュボード作成経験のない人が
生成AIを駆使して 自分で作成すること自体はすばらしい。

しかし、残念ながら 実用を考える上では **落とし穴** に注意が必要。



ダッシュボード画面を作成できたとしても、それだけでは本当の意味での「ダッシュボード作成」とはいえない。

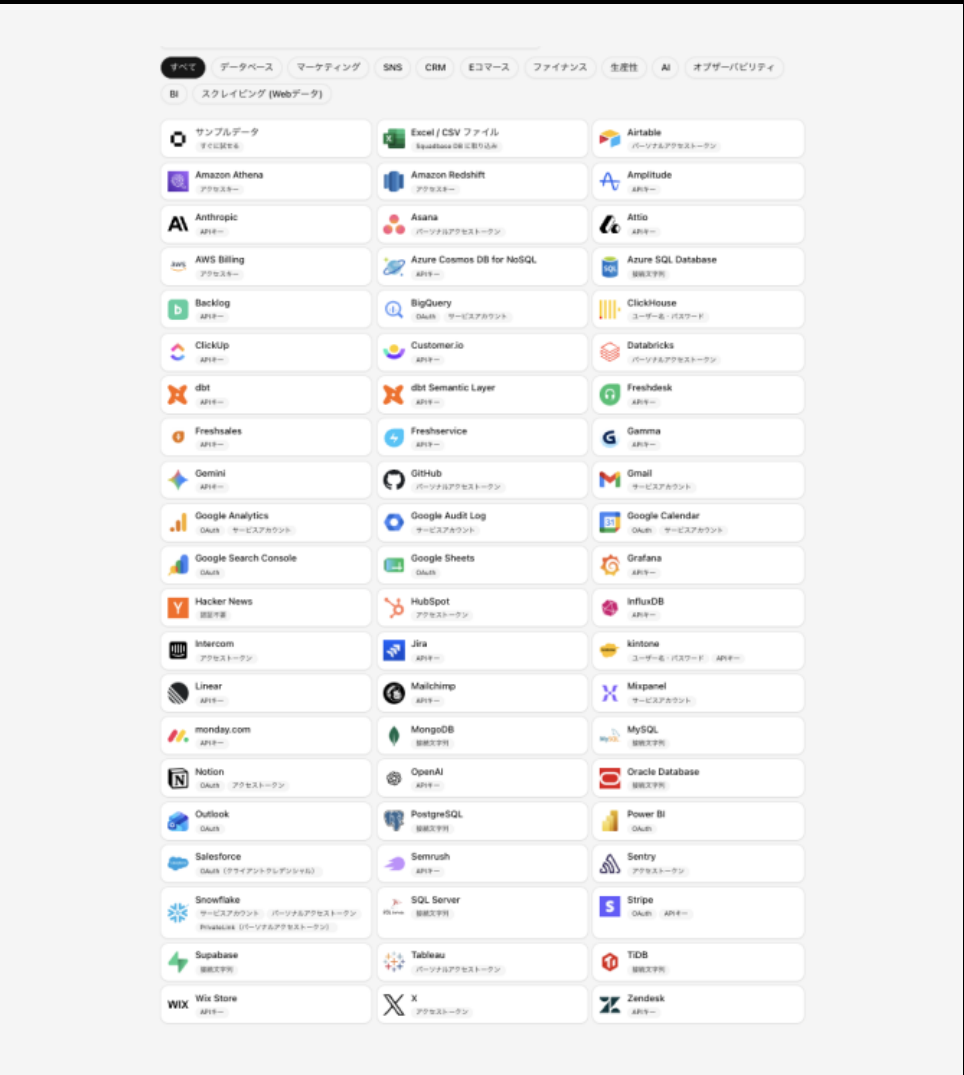
Squadbaseの価値



従来のBIダッシュボード作成における課題：Squadbaseを使うと

ガバナンス

SaaSサービスとして必要な基本機能が備わっており、ガバナンスを効かせた運用と提供が可能。



データ接続

データコネクタを使用した
データ接続、接続情報の管理
(+ AIを使った柔軟な取り込み)



修正・保守

変更履歴管理機能、GitHub連携



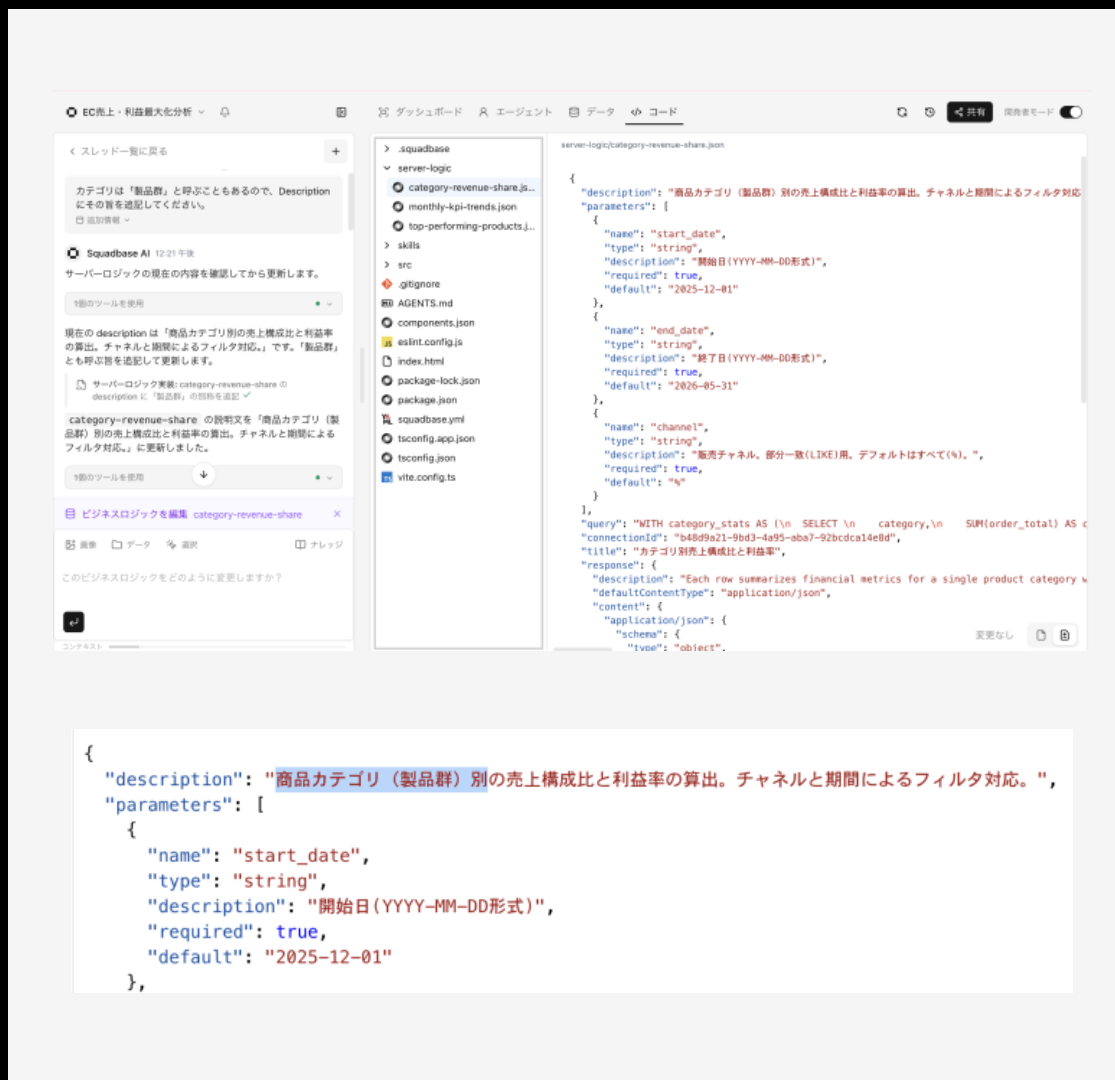
共有

ユーザー管理、共有機能

従来のBIダッシュボード作成における課題：Squadbaseを使うと

自由分析

AIの活用を前提とした柔軟なダッシュボード開発および分析が可能。



データ定義

別名や計算定義を自動生成。
AIチャットからの編集も可能。



ダッシュ
ボード設計

ナレッジに設計ルールを記載。
AIチャットからの作成も可能。



修正・保守

AIチャットに依頼して対応。
他ユーザーの会話履歴も確認可能。

社内に Squadbase の紹介をするとき

Squadbaseは、
次世代型の ”Agentic BI” です。

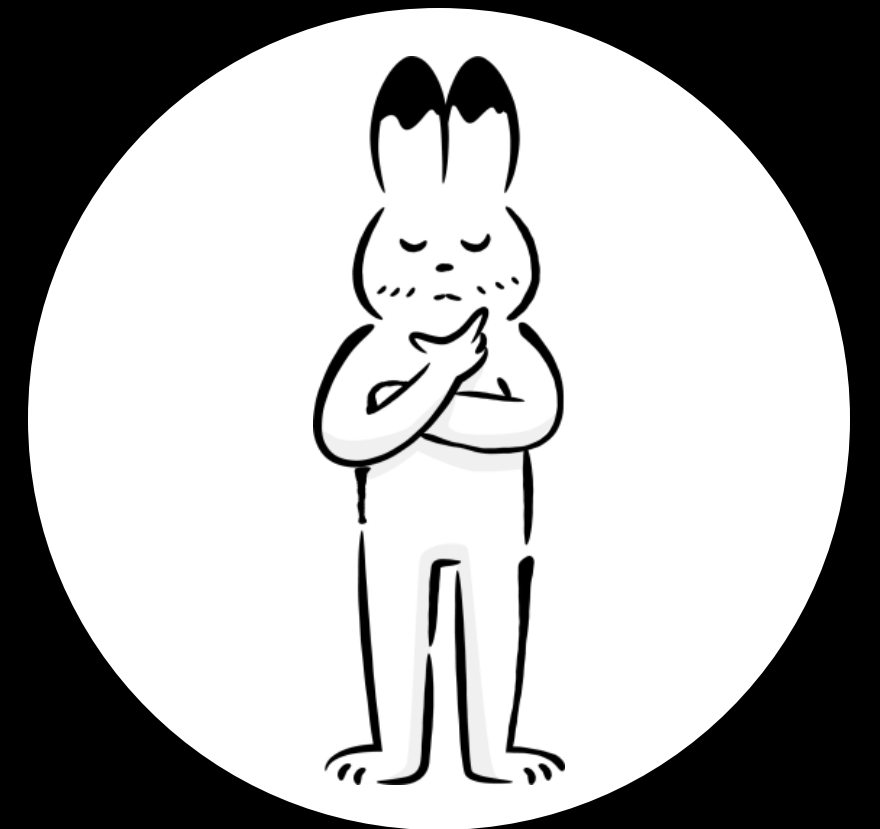
こう言うと伝わりやすいので。



本音では

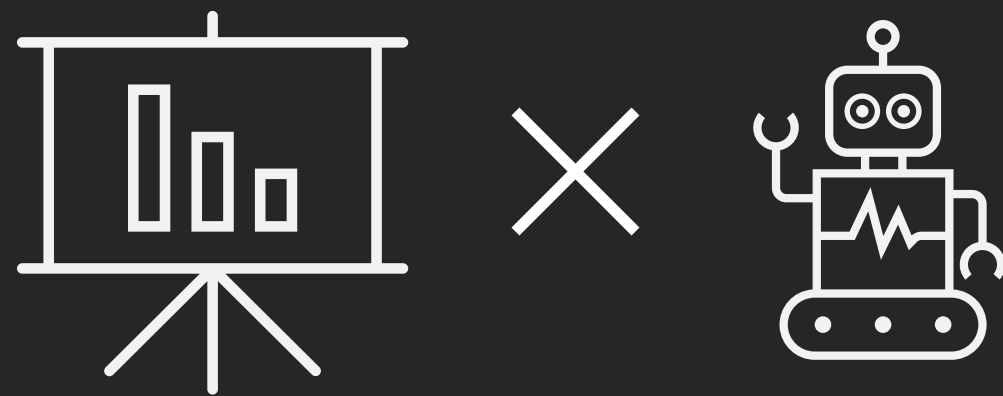
Squadbaseは、
ダッシュボード作成もできる
”AI分析アプリ”だなあ。

実際はダッシュボード作成以外にいろいろできるので。（本当はそこを伝えたい）



Squadbaseのポジション（廣本の解釈）

ダッシュボード×AI機能



ではなく

ダッシュボード on AI PF



「ダッシュボード」という枠組みで考えるのではなく、
「AI PFの上に成り立つ分析環境」として考える必要がある。

「生成AIでダッシュボードつくりました」は本当か：まとめ

- 生成AIで「アドホックなダッシュボード画面」は確かにつくることができる。
- しかし、ダッシュボードの本質は「画面」だけではないため、生成AIだけで「本当の意味でのダッシュボード」がつくられているかどうかには疑問が残る。
- Squadbaseは、従来のBIダッシュボードの機能性とAIの柔軟性を両立したツールではあるが、ダッシュボード作成ツールというよりは、「AI分析プラットフォーム」というイメージ。

本日本話したいこと

- ① 「生成AIでダッシュボードつくりました」は本当か
- ② Squadbaseの「ダッシュボード機能以外」の便利な使い方

便利な使い方

①マニュアル
ページの作成



②新規データの
取り込み・修正



③サマリー作成
AIエージェント



使い方①マニュアルページの作成

よくある課題

ユーザーがダッシュボードの操作方法やデータの定義につまずく。



問い合わせが頻発して、作成者の運用が大変。

マニュアルを準備してもなかなか見てもらえず、更新も大変。



ユーザーもフラストレーションがたまり、徐々に利用率が低下。



使い方①マニュアルページの作成

解決策

AIチャットで指示し、ダッシュボードやデータ定義を説明したマニュアルページを作成する

Squadbase GUI Guide / ノーコード / AIチャット対応

Squadbase 利用マニュアル

SQLやコードの知識不要。画面上のGUI操作とAIチャット対話だけでデータ接続からダッシュボード構築・分析・カスタマイズを行うためのガイドです。

1. 製品概要 & ライセンス

2. ワークスペース & プロジェクト

3. データ接続の手順

4. チャットでの作成・編集

5. 他プロジェクトへの転用方法

チャットベースでのダッシュボード作成・編集ガイド

右側のAIチャットで言葉で指示するだけで、グラフの配置、修正、フィルター追加などを完結させる操作マニュアルです。

グラフの追加

チャットの入力欄に「〇〇のグラフを追加して」と入力するだけで、適切なグラフ形式（折れ線、棒グラフ、円グラフなど）をAIが自動選択して配置します。

プロンプト（指示メッセージ）の例:

- 「月次売上推移を折れ線グラフで画面上部に追加して」
- 「カテゴリ別の売上構成比を円グラフで見たい」
- 「直近の注文履歴TOP5をテーブル（表）形式で下部に追加して」

既存グラフの修正

フィルターの相談・追加

時系列グラフの予測追加

ダッシュボードサマリの追加

ナレッジの確認・追記方法

Portal v1.2 Database Online

Tech Waves 総合ポータル

Tech Waves ブログのデータ構造、およびアクセス状況と改善提案を分析・可視化する統合ワークスペース

1 分析メニュー

ブログの記事データ検索、著者ごとの実績、およびAIによる次の執筆テーマ提案を確認できます。

記事データ検索 (HOME)

全記事のパフォーマンス、サマリ、メタデータを一覧で詳細に検証・分析します。

詳細を見る

著者別パフォーマンス分析

各執筆者の強み、エンゲージメント傾向、おすすめの執筆パターンを自動推奨です。

詳細を見る

次なるテーマの提案

過去実績とAIサマリから導き出された、今後注力すべき執筆テーマと具体的な切り口です。

詳細を見る

2 接続データソース

接続されているデータベース (Squadbase DB) のテーブル定義や、カラムが保持する情報の詳細です。

tech_waves_article_master

記事マスタテーブル — 記事タイトル、概要、担当著者、ジャンル等の基本属性

スキーマ定義

title	VARCHAR	記事タイトル (主キー相当)
author_name	VARCHAR	執筆担当者の氏名
genre	VARCHAR	記事のジャンル
tool	VARCHAR	紹介・解説している製品/技術
tags	VARCHAR	分類用タグ
summary	TEXT	概要・要約テキスト
publish_link	VARCHAR	公開リンクURL

tech_waves_access

アクセス統計テーブル — PV、UU、平均エンゲージメント時間、総イベント数

スキーマ定義

page_title	VARCHAR	対象記事タイトル (識別キー)
col_1 (views)	VARCHAR/INT	合計表示回数 (PV)
col_2 (users)	VARCHAR/INT	アクティブユーザー数 (UU)
col_4 (engagement)	VARCHAR/NUM	平均エンゲージメント時間 (秒)
col_5 (events)	VARCHAR/INT	総計測イベント数
genre_tag	VARCHAR	補完された分類タグ
override_author_name	VARCHAR	上書き用著者表記

- 💡 成果：各案件やツールごとに用意していたマニュアルや資料作成の時間が大幅に削減される見込み。
- 💡 今後：テンプレートやSkillとして組織内に展開し、標準フォーマットとして展開していきたい。

©Hakuhodo DY ONE Inc. All rights reserved. | CONFIDENTIAL

26

使い方②新規データ取り込み・仕組み

よくある課題

マスタ等の手動運用が必要な場合、データの不備や修正が発生する。

フォーマットミス・記載ミス・反映までのタイムラグ等



データ運用のモニタリング体制や修正対応が必要になる。

問題発生時に原因の特定や対応に時間がかかる。



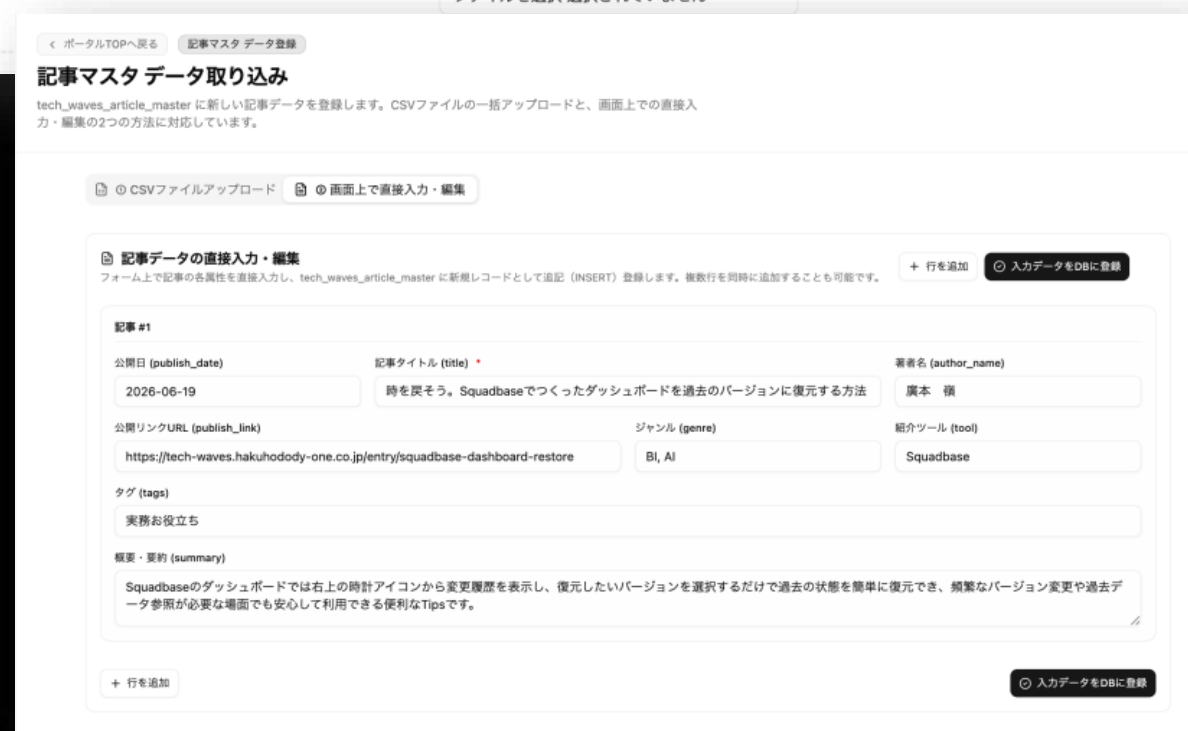
ユーザーもフラストレーションがたまり、徐々に利用率が低下。



使い方②データ取り込みの仕組み

解決策

AIチャットで指示し、SquadbaseDBに新しいデータを取り込み・修正する仕組みを作成する



- 💡 成果：データ運用作業や問い合わせ対応の効率化、データ反映ラグが解消される見込み
- 💡 今後：手動マスタ運用案件等での型化を目指したい。



使い方③サマリー作成AIエージェント

よくある課題

ダッシュボードのサマリーを作成して
レポートする必要があるが、毎回作成するのが大変。



都度AIに壁打ちして作成したとしても、
ダッシュボードへの記載や別途資料の作成が必要になる。



ダッシュボード作成者の負荷が大きいとともに、
作成者依存になりがち。



使い方③サマリー作成AIエージェント

解決策

AIチャットで指示し、定期的にサマリーを作成し、メールを自動送付するAIエージェントを作成。

☆ AI執筆テーマ示唆

過去の記事要約とアクセス実績を分析し、今後執筆すべきおすめのテーマやジャンル別のパフォーマンスを提案します。

☆ AIによる今後の執筆テーマ示唆

過去の記事要約とアクセス実績（PV・エンゲージメント時間）を分析し、読者の関心が高いテーマを提案します。

AI・機械学習Agentforce, Salesforce期待効果: High PV

Agentforceの実践ユースケース：外部API連携による高度な自律型アクションの実装ガイド

ターゲット: Salesforce管理者、AIエージェント導入を検討しているエンジニア

Agentforceの基本設定から一歩進め、外部のWebサービスや社内APIと連携して、エージェントが自律的にデータを取得・更新するアクション（Tools）の具体的な実装手順と、セキュリティ設計のポイントを解説します。

提案理由: 「Agentforce」関連の記事はPV数が非常に高く（1,600PV超）、読者の関心が極めて高い領域です。基本設定の記事に続き、より実務的な「外部連携・カスタマイズ」に焦点を当てることで、導入フェーズに進む読者の強い需要に応えられます。

データ基盤・ETLSalesforce Data Cloud, BigQuery期待効果: High Engagement

Salesforce Data Cloud x BigQuery 双方向データ連携 of ベストプラクティスとコスト最適化

ターゲット: データエンジニア、マーケティング基盤の設計担当者

Data CloudとBigQueryの間でゼロコピー（Zero Copy）連携やデータ共有を行う際の具体的な設定手順、同期タイミングの制御、クエリコストを最小限に抑えるための設計手法を比較検証します。

提案理由: 「Data Cloud」や「BigQuery」に関する記事は、平均エンゲージメント時間が長く（78秒超）、読者がじっくりと技術解説を読み込む傾向があります。実務で直向きやすい「コスト」や「連携設計」の課題に踏み込むことで、深いエンゲージメントを維持できます。

業務効率化・自動化Power Automate, OpenAI / Claude API期待効果: Balanced

Power Automate と LLM API を組み合わせた、社内問い合わせ対応 of 自動一次回答システム構築

ターゲット: 社内DX推進担当者、構シスエンジニア

TeamsやSlackからの問い合わせをトリガーに、Power Automate経由でLLM APIを呼び出し、社内Wikiや過去ログを参照した一次回答を自動生成して返信するワークフローの構築手順をステップバイステップで解説します。

提案理由: 「Power Automateを使ってTeamsの投稿をSlackに自動転記する方法」は、340PV超かつエンゲージメント時間48秒と、手軽な自動化Tipsとして安定したパフォーマンスを示しています。これにトレンドの「LLM連携」を掛け合わせることで、さらに広い層へのアプローチが期待できます。

資格・キャリアSalesforce Data Cloud期待効果: High PV

【2026年最新】Salesforce認定 Data Cloudコンサルタント 受験対策と重要ポイント徹底解説

ターゲット: Salesforceエンジニア、資格取得を目指すコンサルタント

Data Cloudコンサルタント資格の試験範囲であるデータモデリング、データインジェスト、セグメンテーション、有効化の各領域について、実務経験に基づく重要ポイントと、おすすめの学習リソースをまとめます。

提案理由: 「Agentforceスペシャリスト受験体験記」や「人から教わってないことを～」など、資格・キャリアジャンルはPV（1,300～1,600）とエンゲージメント（57～66秒）の双方が極めて高い超優良テーマです。Data Cloudの注目度上昇に伴い、関連資格の対策記事は確実にヒットします。

高パフォーマンス記事の傾向・要因分析

アクセス実績（PV・エンゲージメント時間）と記事マスタの要約文を掛け合わせ、なぜ読者に響いているのかを4つのパターンで分析・考察します。

【TechWaves】今週の執筆テーマ提案（2026年9月15日週）

このメールを要約

週次テックブログテーマ提案アップデーター: agent@mail.squadbase.dev>

宛先: 廣本 領 Hテクノ マケSC MDPD

2026/09/15 (火) 12:39

フラグあり

TechWaves 週次執筆テーマ提案レポート

2026年9月15日（火）自動生成

今週のブログ全体KPI

指標	数値
総ページビュー数	
総アクティブユーザー数	
平均エンゲージメント時間	
計測ページ数	

高パフォーマンス記事 TOP5

記事タイトル	PV	エンゲージ

今週の執筆テーマ提案（4件）

テーマ① | 成功パターン①: トrend技術の一次情報 | 🔥High PV（想定1,000～1,800PV）

【2026年9月版】Agentforce Summer'26新機能完全解説：マルチエージェント連携と推論強化の実装ガイド

対象：Salesforce管理者、エンジニア、AIエージェント導入フェーズの担当者

推薦理由：Agentforce関連は本ブログ最大の集客ジャンル（受験体験記1,614PV・入門シリーズ計1,200PV超）。Summerリリース直後の9月は関連記事が少なく、最速アウトプットの効果が最大化するチャンスウィンドウです。

テーマ② | 成功パターン②: 実務直結トラブルシューティング | 🔥High Engagement（想定80秒以上）

Data Cloud x Salesforce CRM エンリッチメント完全活用術：Enrichment種類の使い分けと実装時の裏

対象：SalesforceエンジニアとCRMとCDPの両方を扱うアーキテクト

推薦理由：「Data Cloud×CRM」記事はエンゲージメント時間91.5秒と全記事中最長クラス。実装深堀り記事で復習の再訪を促し、高読了率の再現が期待できます。

💡 成果：定例会での報告や共有の効率化を実現。示唆出しを元にアクションするきっかけの1つに。

💡 今後：データ種類や用途別に型化、サマリー作成用のナレッジやフローの精緻化を目指す。

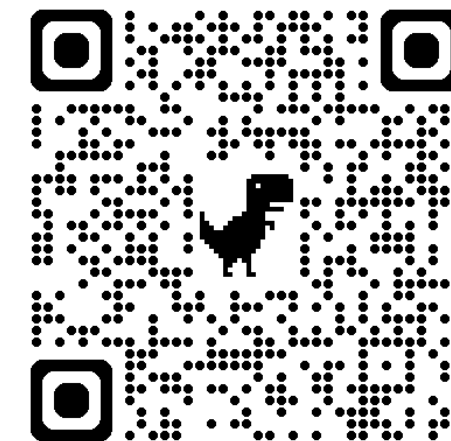


Hakuhodo DY ONE 公式テックブログ『Tech Waves』

Tech Waves

produced by Hakuhodo DY ONE

データ基盤やマーケティングソリューション、AIエージェントなどの
技術Tipsや検証結果を定期的に発信しています！



squadbase

新着順 / 人気順

2026-04-10

～AIがBIダッシュボードをつくってくれる世界～ Squadbaseを使ってみた

AI 検証 Squadbase

こんにちは、廣本です。今回は、AIが主体となりBIダッシュボードを構築する「Squadbase」を使ってみました。Squadbaseとは Squadbaseを使ってみた Squadbaseの環境 データ接続 エディター画面の確認 コードとデータの確認 ダッシュボードの修正 グラフの追...

2026-06-19

時を戻そう。Squadbaseでつくったダッシュボードを過去のバージョンに復元する方法

AI 実践が役立つ Squadbase

Squadbaseのダッシュボードで変更履歴を活用し、過去バージョンをワンクリックで復元できる方法をご紹介します。右上の時計アイコンから簡単に履歴を表示し、必要なバージョンを選ぶだけで、以前のグラフや設定と比較・復元が可能です。頻繁なバージョン変更...

AI

新着順 / 人気順

2026-07-15

【超初心者向け】ターミナルは怖くない！Claude Codeの始め方

AI Claude Code 実践が役立つ 初心者向け

初心者でも安心してターミナルを使い、Claude Codeをインストール・起動できる手順をわかりやすく解説したガイドです。インストール方法からコマンド実行トラブルの対処、作業範囲をサンドボックスで限定する安全な運用まで網羅しています。社内でターミナル...

2026-12-23

Claudeくん、ダッシュボードをつくってみよう

AI 検証

こんにちは、廣本です。ダッシュボードをつくるためには、使用するデータをもとに、分析の流れを意識したグラフ選定とレイアウト、そしてデータを確認した後のアクションまで考える必要があります。単にグラフをたくさん並べれば良いというものではなく、見...

検証

新着順 / 人気順

2026-09-09

Snowflakeで雪だるま作ってみた

Snowflake 初心者向け 検証

Snowflake初心者が、雪だるま作りを題材にSQL、Snowpark、Cortex AI、VARIANT、Streamlit、Stream & Tasksを実践。環境構築から権限でつまづいたポイントまで、実際のコードと画面で紹介します。

2026-09-03

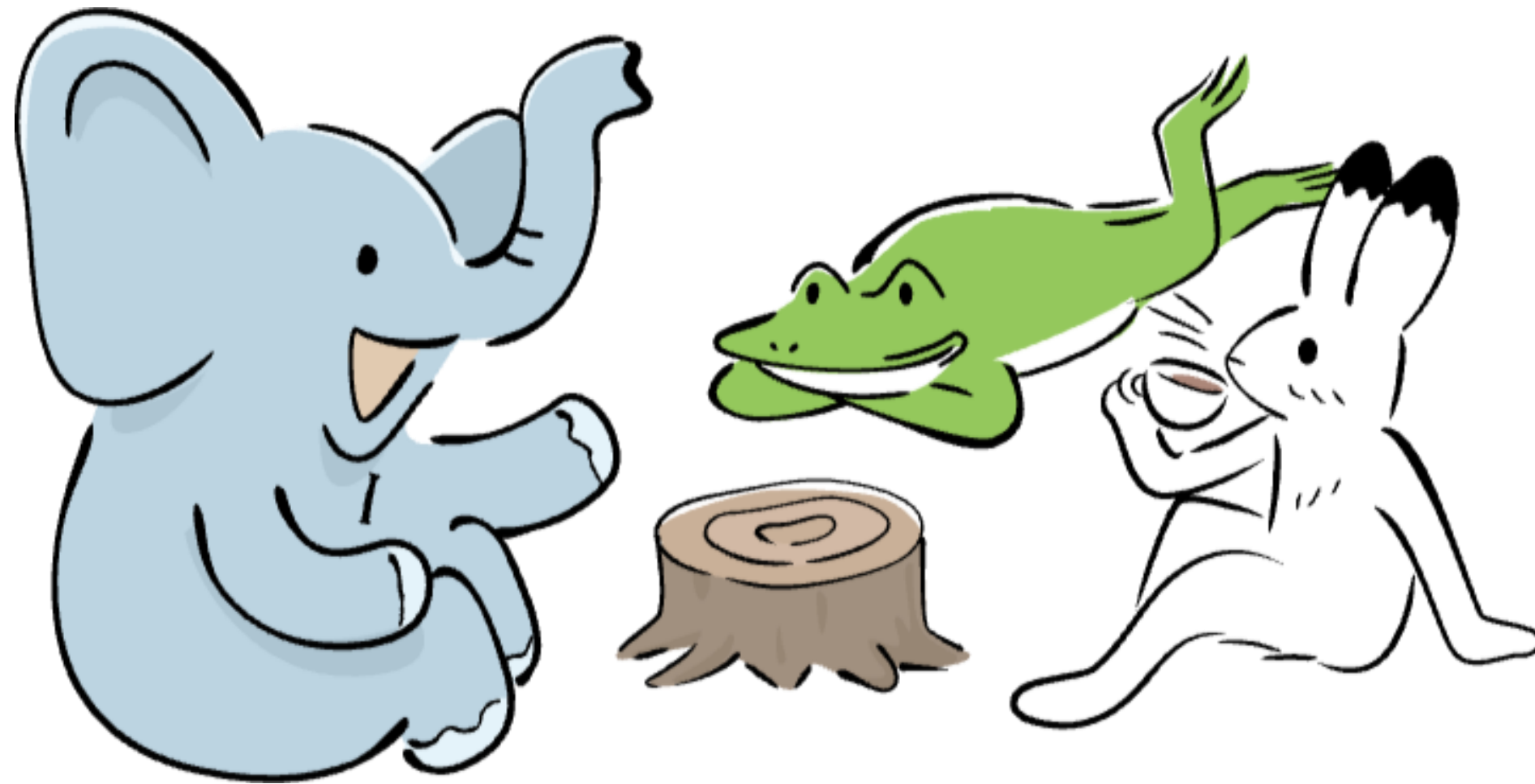
GA4の新機能 Google アナリティクス ダッシュボード（Dashboards in Google Analytics）を使ってみた

GA4 実践が役立つ 検証 実践が役立つ

GA4の新機能「Google アナリティクス ダッシュボード」を実際に試し、作成手順や利用できるグラフ・指標を徹底解説。BIツール不要で画面上に複数グラフを配置でき、データポータルとの差別化ポイントやカスタマイズの制限も紹介。日々のモニタリングや簡易分...

<https://tech-waves.hakuhodody-one.co.jp/>

ぜひみなさんの活用事例も聞かせてください！
一緒にSquadbaseを盛り上げていきましょう！





Hakuhodo DY ONE